Truth
［トゥルース］

富山のスポーツの
真実を伝える

2017 春号

Tスポとやま

¥0 Takefree

VOL.9 富山初のスポーツマガジン



2020年 東京五輪に夢託す

レスリング・宮原優　　水球・保田賢也

ほおばる幸せ。



ほおばる幸せ。
富山米



Truth［トゥルース］

VOL.9 富山のスポーツの真実を伝える 春号

ホームページもご覧ください！！

YU MIYAHARA

KENYA YASUDA

TOYAMA SPORTS

TOYAMASPORTS
THREE TEAM

TOYAMA
SPORTS
MESSAGE BOARD

SPECIAL FEATURES

02 2020年東京五輪に夢を託す
レスリング・宮原優
「登坂さんと金メダル獲得を！」

04 水球・保田賢也
「夢を言葉にし、具体的にイメージを」
未来のアスリートへ思いを語る

06 特別寄稿・泉敏郎
東京五輪で、“スポーツの富山”発信を

07 新県営武道館の建設に意欲
富山で県武道協議会演武会

富山のプロチーム３球団のリアル情報

08 野球
富山GRNサンダーバーズ
巨人から来た長江翔太の決意

10 サッカー
カターレ富山
黒部光昭強化部長インタビュー
「強いチームに」

12 バスケットボール
富山グラウジーズ
地方から世界へ　飛躍のカギは
黒田 祐×秦 英之

14 富山のスポーツ伝言板
アランマーレ新体制を発表／ショートトラックの坂爪が指導

※皆様からの耳寄り情報お待ちしています！

野球をするなら・・・

BIG EGG SUPER BATTING

富山市本郷東部　国道8号線沿い

この春は、こだわりファミマの挽きたてコーヒーで至福のひと時を!!



あなたと、コンビに、FamilyMart　ファミリーマート　検索

問合せ先／ファミリーマート富山営業所　Tel.076-422-9575

ブレンドコーヒー Ⓢサイズ
1杯100円（税込）で好評販売中!!

富山県内のファミリーマートで「Truth」を配布いただいています！

「Truth」の配布にご協力いただいている店舗・事業所などは次の通りです

あおき接骨院、KHEIR（ケイル）、スポーツドームエアーズ、ボンジュールSAKATA二口店、ボンジュールSAKATA富山駅前店、いっぽ堂、スポーツショップランナー、ノン・ビリィ、山内武道具店、カフェ ジャックラビット スリムス、アピアスポーツクラブ、西能病院、JSS富山インドアテニススクール、うな富、ビッグエッグ、ベースボールハウスMVP、すき焼 はやし、バイエルンスポーツ、（有）栄寿し、居酒屋酔虎伝、松長接骨院、竹接骨院、奥田接骨院、原接骨院、ヘアーサロンみずほ、いなみ木彫りの里 創遊館（道の駅 井波）、ねむり家、MUSCLE GYM TOKYO富山店、娘娘餃子、ステーキ すず屋、高岡ワイン倶楽部、LIXILリフォームショップ ユニテ、Mag Haus、カフェ ゴッコ、ハウディーキオスクマーケット1931、ゴールドカレー富山豊田店、curry&bar nine、遊さん、万里摩理（マリーマリー）、Trattria La Luce、浅川接骨院、寿司正、桝カフィ、おき接骨院、村上接骨院、ヤマヒデホーム　（順不同）

このほか、富山県内のスポーツ・文化施設、公共の窓口、スポーツ団体の事務局、総合型地域スポーツクラブの事務局などで配布いただいています。NPO法人Tスポとやまは、「Truth」の配布にご協力いただける事業所・店舗などを随時、募集しております。

NPO法人　Tスポとやま　富山初のスポーツマガジン「Truth」発行・運営
TEL：080-3461-5959　E-mail：nisennen@tspotoyama.com
ホームページ：http://tspotoyama.com/　Facebook：https://www.facebook.com/tspo.truth

富山発のスポーツメディア Truth

東京五輪で金を獲る！

レスリングの宮原優選手は今春、東洋大を卒業し博報堂に入社した。父・稔さんの母校である専修大を練習拠点とし、新たな生活をスタートしている。社会人になる直前の春、故郷の高岡市で県内の小・中・高校生選手を対象としたレスリング教室の講師を務め、「２０２０年東京五輪で登坂絵莉さんとそろって金メダルを獲りたい」と決意を明かした。どんな思いでレスリングに打ち込んでいるのか？稔さんから聞いたエピソードや教室に参加した子どもたちの質問をもとに聞いてみた。



レスリング 宮原 優

――父・稔さんが主宰する「MIYAHARA GYM」は２００２年からスタートし、「共育（きょういく）」を目標としていると聞きました。宮原選手がレスリングを始めた時のことを教えてください。

本格的に始めたのは8歳の時。気づいたら家の横に道場がありました。家が鉄工所で、資材置き場にマットを敷いただけのものですが。5、6人でのスタートだったと思います。3、4年前から練習場所は高岡商業高のレスリング場です。

２歳下の弟がいて、将（しょう）といいます。上田西高（長野）を経て今は山梨学院大でレスリングをやっていて、弟も一緒でした。登坂さんは中学から入ってきました。絵莉さんの父・修さんはうちの父の高岡一高の2年先輩になるそうです。

――稔さんの指導はずいぶん、厳しかったそうですね。「今、反省を踏まえて（保護者に）助言するとすれば、試合に負けた日には叱らぬように。負け試合の中からでもいいところを見つけて、ほめてあげてほしい」と言っておられました。宮原選手は子どもたちに分かりやすく、楽しく教えています。きょうの指導のポイントは？

①タックルをしてから、次の技にすぐ展開する②フェイントからの変え脚タックル――という私の得意技に重点を置いて指導しました。簡単な言葉を使うように心掛けています。小学生には動きをやって見せるとちゃんと理解してくれました。今、選手として必死なので引退後のことを考える余裕はありませんが、将来はずっとアスリートと関わっていく役割を続けたいと思っています。

みやはら・ゆう　1994年4月27日、高岡市出身。158センチ。東洋大卒。小学校2年時に「MIYAHARA GYM」でレスリングを始め、2008年にはJOCエリートアカデミー入学、都内にある北区立稲付中から安部学院高に進み、ユース五輪（46キロ級）、世界カデット選手権（49キロ級）優勝。2年時に全日本レスリング選手権（51キロ級）を制した。13年レスリング世界選手権（同）では2回戦敗退、世界ジュニア（同）優勝。14年から49キロ級に変更し、世界ジュニアで2階級制覇を達成。その後、53キロ級に上げ16年の全日本レスリング選手権では準優勝。17年から博報堂DYスポーツマーケティング所属。



WRESTLING

文・写真　若林　朋子
text&photo by Tomoko Wakabayashi



――子どもたちには「親しみやすいお姉さん」という印象を与えておられたようです。質問ではレスリングと関係のないことでも答えておられましたね。

好きな食べ物は寿司、焼き肉、マカロンです。メダルの数は？　という質問では「小学生のころから数えたら１００個を超えています。一番思い出深いのは、高校2年の天皇杯で優勝した時のメダル」と答えました。幼いころに、家ではどんなトレーニングをしていた？　と聞かれ「馬跳びや片足タックル」と。教室の後、食事をしながら楽しく交流しました。

――食事といえば、レスリングは減量があるので大変です。気を付けていることは？

食事は野菜から食べ始めます。肉は脂身を除いて食べる。体脂肪は一度つくと、落とすのが大変です。「今、これを食べたら、落とすにはどれだけ大変だろう」と思って、食べないようにしています。減量中、1食で摂取できるのは５００～６００キロカロリー程度しかありません。最後の1週間は水を1日5リットル飲みます。塩分の取りすぎにも気を付けています。なぜなら、塩分を取りすぎると体から水分が抜けにくくなってしまうから。バナナはよく食べます。カリウムが豊富なので、水を体外に出してくれます。48キロ級のころは試合の前に57キロぐらいから9キロも絞らねばなりませんでした。

――宮原選手にとって、登坂選手の存在とは？

リオ五輪を目指す過程では登坂さんと階級がかぶってしまいました。しかし、東京五輪に向けては53キロ級で戦うので一緒に出場し、そろって金メダルを獲りたいです。先日、（登坂選手の練習拠点である）至学館大で合宿があり、再会しました。私が到着するとすでにトレーニングを始めており、私たちが帰ってからも残って練習しておられました。「やっぱり気持ちが強い」と思います。

――日本の女子は層が厚いので、国内大会でも勝ち上がるのは大変ですが、目指すは２０２０年東京五輪ですね。

まだまだ強くならねばいけないと思っています。4月から博報堂に所属し、4年間サポートを受けて競技に専念できる環境を与えられています。自分だけのためにレスリングをするのではなく、会社や応援してくださる方のために頑張りたい。毎日、自分の限界を超える経験をしていると実感していますね。

■きつい！でも面白かった　大場虎之介君

僕はMIYAHARAジムの後輩です。宮原選手とのきょうの練習はめちゃくちゃきつかった！でも面白かったです。スパーリングでは新しい技やタックル、また相手のタックルをかわすことを教えてもらいました。ありがとうございました。

■宮原先輩に鍛えられた　北　尚恵さん

MIYAHARAジムのOG。小2からレスリングを始め、高岡商高1年の時、クリッパン国際大会52キロ級で準優勝しました。登坂絵莉・宮原両先輩に鍛えられたおかげです。宮原先輩は負けん気がすごい。私は今、保育士として頑張っています。



MIYAHARAジムの後輩と仲良く記念撮影

しっかり構え、低い体勢から鋭いタックルを！

滑川高校レスリング部出身で、高校時代は3年生の時に58キロ級で選抜、インターハイ、国体に出場しました。全国大会では初戦突破が最高の成績です。日大に進み、学連の仕事をする中で、審判資格を取りました。国内資格からスタートし、現在の「カテゴリーⅢ」に。五輪、世界選手権以外の大会の審判をすることができます。

最近のレスリングの傾向から、どんな練習すればいいかを考えると、次のようなことが言えると思います。試合時間は3分の2ピリオド制で、最後まであきらめなければ、逆転が可能です。リオ五輪での登坂選手の戦いぶりはその一例。ワンチャンスをものにすれば勝てる。ただし、ディフェンスが強くなければだめです。

そのためにジュニア時代からすべきことは①しっかり構える②低い体勢から鋭いタックルを鍛える……これら基本が大切。3分間のシナリオを自分で作り、考えながら戦うこと。合同練習などの機会には、人見知りせず、いろんな選手と手合わせしましょう。人間的にも成長できます。

２０２０年東京五輪に向けては、日本の層の厚さからいうと、各階級の上位3選手は国内予選でだれが勝ってもおかしくない状況です。ドーピングなども厳しく、安易に治療薬は使えない。登坂、宮原選手らには常に万全のコンディションで戦い続けてほしいですね。



浦田　享さん
世界レスリング連盟公認審判員

「夢を言葉にし、イメージを」

水球の日本代表としてリオ五輪に出場した保田賢也選手。
日本は32年ぶりの「五輪切符」獲得であり、注目を集めました。
タレントとしても活躍する保田選手は一躍「時の人」に。
競技の第一線から退いたものの、水球の普及に奮闘する姿は本当にカッコいい！
「富山の未来のアスリート」11期生の約60人を前に、
2020年東京五輪に向けてスポーツへの情熱を語ってくれました。



水球・保田賢也がリオ五輪を振り返る

Kenya Yasuda

――競泳から水球へ転向し、五輪出場という夢をかなえた保田選手は、どんな少年時代を過ごしたのでしょうか？

家と学校、プールはすべて1キロ以内の場所にあり、学校に行く以外は「水球にどっぷり」という生活。チームでの練習が終わっても、キーパーのチームメイトに残ってもらって、シュート練習をしました。納得のいく1本が決まるまでやめません。水球が好きでしたので、苦にならなかったです。いい指導者にも会えました（と言って恩師の木倉敏彦先生の方に視線を送る）。

高校時代はインターハイで準優勝。国体も出場したけれど、日本一にはなれませんでした。「やるからには優勝を」といつも思っていました。あの頃に戻れるなら、インターハイか国体で優勝する目標を達成したいなあ。しかし、惜しいところで負けた経験があったから、その後も続けてこられたのだと思います。

思い出に残っている出来事は、海が近かったので、海までダッシュし、水球したこともあったですね。先生は「何をしたいか？」と聞いてくれました。また、やりたくないことも。自主性を大事にする指導でした。

――筑波大入学後は日本代表入りを果たしました。しかし、決して順調ではなかった。悔しいこともあったはずです。

フル代表に選出された時は「選ばれてラッキー」という感じでしたね。チームの中に10歳ぐらい年長の選手もいて、パス一つ出すのにもドキドキしました。緊張して頭が真っ白になったことも。ついて行くのに必死でした。重圧がすごかったですね。慣れと経験が必要だった時期です。

フル代表から外れた時期もありました。「何で？　自分に何が足りないのか？」と思い、ビデオを見て研究しました。しかし、自分の欠点はなかなか分からないものです。だから人に聞きました。思えば天狗になっていたのですね。その後、無事復帰したので外された経験は糧になりました。

ロンドン五輪の予選も代表から外れ、練習相手として合宿に参加していました。アジアでは1チームしか出場権がなく、僅差でロンドン五輪出場を逸しました。「日本はもう少しだ」と確信し、寝ても覚めてもリオ五輪に出ることばかりを考えるようになりました。年間200日ぐらい合宿に参加し、辛かったけれど、やめたいとは思いませんでした。大学時代に水球と芸能界、どちらの道に行くかの決断を迫られたこともあった。しかし、「優勝しないで水球をやめていいのか？」考え、どっちもあきらめたくないと思いました。

――やはり、五輪は夢の舞台でしたか？　ご両親もリオへ行かれたのですよね。地元富山も盛り上がりました。

五輪はスポーツ選手として1度は行かねばならない場所です。世界選手権とは違う。五輪予選前はテレビカメラが2台しかついてこなかったのに、代表権を得て帰国したら30台も集まっていました。「五輪に出るってすごい。これで水球が有名になるぞ」と思いました。

五輪予選の前の合宿では、ごはんがのどを通らないほど練習しました。1人だったら、やめていたでしょう。チームだからこなせた練習でした。年間200日以上も一緒にいたら、気持ちが分かるようになりました。4年間一緒に頑張ってきた仲間と五輪に行けたことが何よりうれしかったです。

また、僕らの力だけで出られたわけではない。過去の先輩たちの頑張りもあった。日本代表OBからは「水球をもっとメジャーにしてくれ」と言われました。いざ五輪の舞台に立つと、緊張はなかったですね。楽しみたいという気持ちが大きく、マイナスの感情やプレッシャーはありませんでした。

海外の選手の強さは痛感しました。丈夫な海パンが引っ張られ、破れることも。身長2メートル、体重100キロの選手なんてざらにいます。182センチ、80キロの僕など小柄です。勝てないですよね。だから日本は頭脳と技術と体力で勝負せざるを得ない。海外の選手にはこなせない練習を経て本番に臨みました。

――保田選手のこれから、そして「富山の未来のアスリート」へエールをお願いします。

競技の第一線からは退きました。今後、自分が何をしたいかは明確に決まっていません。ただ、「水球がマイナースポーツで終わってほしくない」という気持ちから、競技の普及に貢献したいと考えています。リオ五輪に出場したことで、水球の認知度は上がった。2020年は出られるけれど、東京の次に出られなかったら、日の目を浴びることのないスポーツになってしまう。継続して五輪に出ることが大切です。

3年後は解説など選手時代とは別の立場で水球を盛り上げているはずです。3年後の日本代表がメダルを獲ってくれたら、僕の活躍の場も広がるでしょう。

芸能界での活動も引き続き行っていきます。これからの人生、とことん悩みたいと思います。悩むというのは、前に進もうとしている証拠ですからね。

皆さんもそうですよ。悩んでください。悩まない人、挫折しない人はいない。人生の分岐点に来たら、難しい方を選んでほしい。勉強と一緒です。分からない問題に直面した時、すぐ答えを求めてはだめですよ。「自分はこうなりたい」と夢を言葉にし、具体的にイメージしてください。予測しておくと、チャンスに恵まれたらすぐに動けます。前向きに夢をかなえていきましょう。



やすだ・けんや　1989年3月29日富山市生まれ、28歳。富山市大広田小、富山北部中、富山北部高、筑波大卒。中学・高校時代は富山ウォーター・ポロクラブに所属。筑波大卒業後はブルボンウォーター・ポロクラブで活躍。2014年アジア大会準優勝、16年リオ五輪出場。





聞き手　土田　由香里
interview by Yukari Tsuchida

文・写真　若林　朋子
text and photo by Tomoko Wakabayashi

傷害保険　賠償責任保険　突然死葬祭費用保険　でも、もしもの怪我に心強いスポーツ安全保険

スポーツ安全保険

4名以上の団体・グループでご加入ください。

対象となる事故　団体活動中の事故 / 往復中の事故
平成29年度 保険期間　平成29年4月1日午前0時から平成30年3月31日午後12時まで（申込受付は平成29年3月から）

公益財団法人 スポーツ安全協会 富山県支部（公財）富山県体育協会内
〒939-8252 富山市秋ヶ島183番地 富山県総合体育センター内 TEL 076-429-1230
電話受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝日を除く。）

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧下さい。
http://www.sportsanzen.org
●資料請求は、インターネットより受付けております。

補償期間：平成29年4月1日午前0時から平成30年3月31日午後12時まで。ただし、平成29年4月1日以降の加入手続きの場合の補償開始期は、加入手続きを行った翌日0時からとなり終期は平成30年3月31日午後12時までです。

この広告はスポーツ安全保険（スポーツ安全保険特約に基づく傷害保険（スポーツ安全協会傷害保険特約・スポーツ安全協会傷害保険特約（学校管理下外担保）・突然死葬祭費用担保特約付帯普通傷害保険）、賠償責任保険（スポーツ安全協会賠償責任保険特約等付帯施設賠償責任保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約（学校管理下外担保）付帯普通傷害保険賠償責任担保条項））の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら（公財）スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険（株）までお問い合わせください。

<引受幹事保険会社>
東京海上日動火災保険株式会社（担当課）公務第2部公務第1課
TEL 03-3515-4133（平日9:00～17:00）

<共同引受保険会社（平成27年4月予定）>
あいおいニッセイ同和　共栄火災　損保ジャパン日本興亜　大同火災
東京海上日動　日新火災　富士火災　三井住友海上
平成26年12月作成 14-T-09668

東京五輪で〝スポーツの富山〟発信

昨年のリオ五輪では富山県出身の
２選手が金メダルを獲得し、
「富山」を大いに世界へアピールしてくれた。
県内の多くのジュニアアスリート達が夢と希望を抱き、
最終目標を「五輪選手」と位置づけたに相違ない。
そして３年後の２０２０年には
東京オリンピック・パラリンピックがやってくる。



特別寄稿　泉　敏郎

いずみ・としろう　51歳、熊本県出身。4月から帝京平成大学現代ライフ学部専任講師。富山県競泳国体チーム前監督（２０００年～２０１６年）。

■ソウル五輪を目指す

夏季五輪の日本開催は、１９６４年以来、56年ぶりである。私は65年に熊本県山鹿市で生まれたこともあり、かつての東京五輪のことは知らない。大学時代、競泳競技において日本選手権、日本学生選手権の優勝を目指し日夜練習に取り組んだ記憶がある。88年ソウル五輪日本代表を目指したが「叶わぬ夢」となった。自分の限界まで追い込むトレーニングでプールの中で失神したこともある。それでも日本代表にはなれなかった。

簡単には叶えられない日本代表。どんなに思いを寄せても、努力を重ねても五輪行きの切符は簡単に手に入らない。だからこそ、「オリンピック」とは私にとって、人生の目標であり夢の大舞台であり、遠く、偉大な存在であるがゆえに、現在も五輪への思いが過剰になり、「存在感」は増すばかりである。

現役引退後、大学競泳部のコーチの経験をいかし、１９９１年上市町に開校した富山健康科学専門学校専任講師となった。24年間、県内外へスポーツインストラクターをはじめ健康づくりに寄与する人材養成に携わった。また、２０００年とやま国体後に富山県水泳連盟競泳委員長として微力ながら、県内選手の競技力向上に努めてきた。ただ、常に脳裏には私にとっての夢でもあった「五輪出場」を県内の競泳選手へ託したい気持ちが存在した。

県民の１人として、富山県のアスリートが自国開催である東京五輪のステージで戦う姿が見たい。

■大学の存在は大きい

東京五輪まで残り3年弱の時間で、自分自身に何ができるのか改めて考える日々が続いている。その過程において、東京からの様々な情報を富山へ共有できるかを模索する中で、この4月より東京の大学に転職し、教員として歩む道を選択した。関東エリアには多くの大学が存在する。1976年から2012年の過去の五輪を検証すれば五輪日本代表出場選手に占める大学生、大卒者の割合実に3分の2に及ぶ。いわば大学の存在は五輪にとって大きな存在となる。

現在、すでに都内では、東京五輪の開会式の会場、新国立競技場の建設が急ピッチで進められている。3年後の8月、全世界の各々の国を代表するトップアスリートが「この地」に集合する。自国において人類スポーツの「最高峰」が目前に迫りつつある。もう遠い話ではなく、あっという間に東京に「オリンピック」がやってくる。



建設中の新国立競技場

今の東京で圧倒的に不足するのはオリンピックへ向けてのトレーニング環境。今後、東京五輪開催までに各大学の競技部が幾度と強化合宿を実施するであろう。さらに、東京五輪に向け、全世界のアスリートたちが日本の環境に類似したキャンプ地を模索することが予想され、さまざまなファイターが「しのぎを削る」ことになる。

富山県は北陸新幹線開業で、東京より2時間という短時間で移動可能な場所となった。駅や空港から近い場所に天然芝グラウンドや体育館、プールなどがあり、合宿地となるハード面で十分な環境が存在する。

■夢を夢とするのでなく

スポーツパフォーマンスのすべてが「真似」から導入されると言われる。県内選手が、海外選手をはじめ関東エリアの大学強豪アスリートのトレーニングを通じ良い刺激を受けることで、さらに競技力向上に繋がるのではないか？世界を目指すアスリートを、目の当たりにし、夢を夢とするのでなく、より現実に夢を可能とする「きっかけ」になることが期待される。

私の勤務先となる帝京平成大学には、女子サッカー部をはじめ多くのアスリートが在籍する。富山県内の施設を利用し合宿なども検討したいと考えている。そして今後、全国の大学が、世界のアスリートが、この素晴らしい「富山のフィールド」を体感してくれることを願う。私は、そのきっかけを東京からつくっていきたい。

新県営武道館の建設に意欲

富山で県武道協議会演武会／9団体が形など披露

文・写真　若林　朋子
text and photo by Tomoko Wakabayash



ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）の日本代表は「侍ジャパン」と呼ばれる。サッカー日本代表のユニホームの色は「SAMURAI BLUE（サムライ・ブルー）」。テレビ番組でジャニーズのタレントがダンスの練習中に着るジャージを「稽古着」と言っていた。これらのことから封建時代の個人のありかたを示す「武士道」や、武道において培われてきた精神は、ほかのスポーツ・文化にも浸透していると思われる。

主要武道９連盟が加盟する日本武道協議会は武道・武士道について次のように定めている。「武道は、武士道の伝統に由来する我が国で体系化された武技の修錬による心技一如の運動文化で、柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道などを修錬して心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である」。日本古来の武道について、あらためて理解を深めてみたい。

日本武道協議会の下部組織である富山県武道協議会の第３回演武会は３月11日、富山市の県営武道館で開かれ、弓道、剣道、なぎなた、銃剣道、柔道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法の順で各競技団体の代表者が形などを披露した。県武道協議会は２０１４年２月に発足した。新県営武道館の建設を目的とした活動や、講師を招聘しての講演会などを実施している。

代表者は「礼に始まり、礼に終わる」という武道の基本を踏まえ、気迫のこもった演武を行った。演武会に先立ち、県武道協議会の会長を務める中川忠昭県議が参加者を激励、閉会式では同協議会理事長の橘川謙三県柔道連盟会長が新県営武道館の建設に向けて意欲を示した。

■弓道／「立禅」と言われるように動きの少ない武道。３人で一つの的に交互に矢を射る「つ的射礼」を披露。

■剣道／抜刀して身を守る居合道を紹介。木刀を使って敵対動作を行う組太刀演武と真剣による形を実施した。

■なぎなた／２メートルを超えるなぎなたを自在に操る。女性の競技と思われがちだが、男性の有段者も多い。

■銃剣道／槍の突き技を源流とした武道で、日本人の体格に適している。形と防具をつけての試合が披露された。

■柔道／五輪種目だが形を見る機会は少ない。演武者の木下勝美さんと澤田美紀さんは北信越形競技会で5連覇。

■相撲／「寄り切り」は相手と一緒に倒れると「寄り倒し」になるなど解説により決まり手への理解が深まった。

■空手道／２０２０年東京五輪の追加種目として採用。形と２人が防具をつけて試合をする組手、乱取りを披露。

■合気道／優劣を競うことはなく、試合や競技を実施しない。刀を使った合気刀法、杖による合気杖道も紹介。

■少林寺拳法／日本が発祥で、技は護身を旨とする拳法であり、本来は自己確立、自他共楽への人づくりの「行」。

■新県営武道館建設へ署名ご協力を
TEL 076(425)5536 E-mail ryouun@tam.ne.jp

富山県武道協議会は新県営武道館建設を目指して署名活動を行っています。
武道の普及・振興の拠点の建設に賛同いただける方は、ご協力をお願いします。
問い合わせは同協議会事務局長の村雲荘一さんまで。

野球に集中できる環境に身を置く幸せ

富山GRNサンダーバーズ　長江翔太外野手

2017シーズンの富山GRNサンダーバーズは、新外国人選手が注目を集める。しかし、期待の新戦力も。中でも14年から3年間、巨人で育成選手として過ごした長江翔太外野手にも注目したい。恵まれた体格、長打力は必見だ。

●巨人から富山へ

富山へは3月の2週目に引っ越してきた。2016年に巨人の一員として試合に訪れた地である。試合をしたということしか印象になかったが、住んでみて思うことは「立山連峰がきれい」である。そして、野球に集中できる環境に身を置けていると幸せを感じている。

大阪府出身の25歳。阪神やオリックスといった在阪球団が身近にある。野球と出会ったのは6歳の時だった。近所の男の子が家の前の壁に向かってボールを投げて練習している様子を見て野球を始め、虜になった。もちろん小学生の時から夢は「プロ野球選手」。一度つかんだ夢は、活躍の場とはならず、野球の厳しさを学ぶ場となった。

●夢への一歩

14年に育成2位で投手として巨人軍に入団。小さい頃からの「プロ野球選手になる」という夢の一歩を踏み出した。巨人の一員としての生活は、野球以外でもプレッシャーの毎日だった。同じ球団に所属しながらも1軍選手と3軍でプレーする自分とでは、実力の差は歴然。近いようで遥か遠くの存在に感じた。

長江の好きな言葉に「可能性が低いということはゼロではない」がある。野球漫画の言葉だが、どんな時もこの言葉を思い出し、諦めずに取り組んできた。

●打者への転向

投手として力は発揮できなかった。14年秋、バッティング練習時の飛距離から打者転向を打診され、承諾。自分が生き残る道を見出した。長距離バッターとして、期待に応えようと取り組んできたその姿に、15年の秋のキャンプで川相昌弘3軍監督から「次のシーズンはホームラン20本打てる」と言われるまでになった。

長江はこの数字を大事にしようと誓った。大きな目標を持ち、言葉にして伝えることは年齢を重ねるごとに恥ずかしいことのように思うかも知れないが、言うことが大事だと自らにプレッシャーをかける。そして、今年の目標も「ホームラン20本」だ。



ながえ・しょうた　背番号55、外野手。1991年10月8日生まれ。大阪府出身、180センチ、86キロ。金光大阪高ー大阪経済大ー巨人（育成2014～16）ー富山GRNサンダーバーズ（2017～）

SHOTA NAGAE

聞き手・文　土田　由香里
interview and text by Yukari Tsuchida
写真・富山GRNサンダーバーズ、赤壁　逸朗
photo by Toyama GRN Thanderbirds,Itsurou Akakabe

●自分への問いかけ

16年秋、戦力外になった時、悔しい思いと野球を続けたいという思い、選手として必要としてくれる球団があるのか不安がよぎった。昨年受けたトライアウトで「富山から声をかけてもらえた時は嬉しかった」と言う。だからこそ生まれた、心からの言葉だ。声をかけてくれた吉岡監督は、巨人の先輩でもある。

目標を言葉として伝えることを大切にしている。長江は、常に視界に入るよう部屋にたくさんの張り紙をしている。「自分への言葉」が並んでいるという。クリアしなければならない課題はもちろんだが、心に刻み込まれた思い「戦力外になった悔しさを忘れるな」「実力不足。もっとうまくなれ」。

●背番号「55」

背番号「55」は長江本人が選んだ。幼いころはイチロー選手に憧れを抱いたが、打者としてタイプが違う。長打力がセールスポイントの長江にとって、松井秀喜さんが背負った「55」が目標達成に向けた一つの証しなのかもしれない。

松井さんから昨年2月のキャンプで、「飛ばすね」と声をかけてもらい、自信になったという。1月、イオンモール高岡で行われた新入団選手発表記者会見でも「浪花のゴジラ」とファンへアピール。「ホームランで流れを変える」と意気込みを語った。その言葉に、ファンの期待も大きくなったに違いない。

打者に転向して3シーズン目。「シーズンを通して試合があるBCリーグは、成長できる場」と長江。経験値の少ない分、より多くの試合で結果を残し、チームの優勝と自身のNPB復帰を目指す。



長江翔太選手のサイン色紙 2名様にプレゼント！

富山GRNサンダーバーズ長江選手のサイン色紙を抽選で2名にプレゼントします。ご希望の方は、住所、氏名、電話番号、Truthに対するご意見・感想を明記の上ご応募ください。締め切りは、6月末。応募先は下記の通り。



E-mail: nisennen@tspotoyama.com
(個人情報につきましては、商品の発送にのみ使用いたします)
なお、発表は商品の発送をもって替えさせていただきます。

富山GRNサンダーバーズ
ホームゲーム日程(5月～前期終了)

開催日	対戦カード	開始時間	球場
5月5日(金・祝)	滋賀	14:00	アルペン
5月6日(土)	福井	13:00	アルペン
5月7日(日)	福井	13:00	県営富山
5月13日(土)	信濃	13:00	城光寺
5月14日(日)	信濃	13:00	城光寺
5月18日(木)	石川	18:00	高岡西部
5月20日(土)	石川	13:00	黒部
5月26日(金)	巨人3軍	18:00	高岡西部
5月27日(土)	巨人3軍	13:00	県営富山
5月28日(日)	巨人3軍	13:00	県営富山
6月11日(日)	石川	14:00	となみ
6月17日(土)	滋賀	13:00	城光寺

MODEL HOUSE
NEW OPEN!!
新モデルハウスの見学会開催！
5.13 SAT・14 SUN
AM10:00 - PM5:00
高岡市赤祖父
YAMAHIDE
（株）山秀木材 ヤマヒデホーム
詳細はHPをご覧ください！
www.yamahidehome.co.jp

カターレ富山は創設10年目を迎えた。J2復帰を目指して昨季からチームの再建を託されているのが2010−13年にカターレでプレーした元日本代表選手の黒部光昭強化部長だ。Jクラブの強化責任者としては若手といえる39歳。一般的にはあまり知られていない職務内容や自身の考えについて明かしてもらった。

強いカターレを目指して

黒部強化部長インタビュー

構成・写真　赤壁　逸朗
text&photo Itsurou Akakabe



くろべ・てるあき　1978年3月6日生まれ、徳島県出身。徳島商高、福岡大を経て京都に加入し2002年度の天皇杯制覇にも貢献したストライカー。元日本代表。J1・J2通算345試合出場93得点。01年に現在もJ2記録の7試合連続得点をマークしている。10−13年のカターレ在籍時はJ2で22得点。タイでのプレーを経て15年に引退し同年12月から現職。

――カターレにおける強化部長の役割は。

チームを強くすることが仕事です。年を重ねることに強くなり、どこかのタイミングでJ2に昇格し、再びJ3に戻らないようにして上を目指していきたい。まずは自分が選手としていたころよりも良いクラブにしたいですね。J3で戦うトップチームだけでなく、U18、U15といったアカデミー部門も管轄しています。他のクラブから選手を獲得することに注目が集まりがちですが、強化のもうひとつの柱は選手を育てること。その中にアカデミーでの育成も含まれるからです。10年、20年先を考えると、地元出身の選手が先発11人のうち半数を占めるぐらいになるのが望ましいと思います。アカデミーのスタッフと連携し、どうすれば理想像に近づいていけるのか模索していかなければいけません。

――チームを強くするために具体的にはどんな仕事をするのですか。

練習や試合といったトップチームの現場に立ち会う仕事が約3分の1。選手やスタッフがやりやすい環境をつくるために状況を把握し、サポートする。プレーや練習をチェックして選手、スタッフを査定することなどです。次の3分の1はお金の管理。限られた予算の中で選手獲得や遠征、備品の調達などの費用をどう有効にやりくりするかを考えます。残り3分の1は外交。外部との交渉、情報収集などですね。選手獲得のためだけでなく、トレーニングやけがの治療方法なども最新の情報を集めて良いものがあれば採り入れるのも仕事といえます。選手と交わす契約書の作り方にはルールやコツがあるので習得しなければいけません。わたしは商業科卒なので予算を管理するうえでの数字は苦手ではない。しかし、パソコンが得意なほうではないので書類作成には苦労しています。

■交渉術に自身の経験生かす

――選手の獲得は強化部長の腕の見せ所といえますね。

わたしは選手時代の15年間、ずっと代理人を置かずに自分自身でクラブ側と交渉してきました。その経験が役立っていると感じます。交渉の際に、こちらの熱意をどう伝えるかがポイントで、カターレがなぜあなたを必要としているのか、できるだけ具体的に話すようにはしています。選手が決断する時にも各々が大事にするフィーリングがある。例えば、わたしがカターレへの移籍を決めたのは、トライアウト後に真っ先に声を掛けてくれたことが大きかった。すぐにほしいと言ってくれる、必要としてくれるというのは大きな要素だと思います。

――選手の代理人や関係者からの売り込みも多いのではありませんか。

自分で見たものしか信じない、というのが原則ではあります。プレーはもちろんですが、顔つきやたたずまいから伝わってくるものがある。カターレに合うか合わないか、メンタル面も選手を獲得するうえでの重要なポイントですから。

――強化部長にとって大事なことはなんでしょうか。

約30人の選手の枠内でどうチームを構成するかを考えることです。試合に先発出場するのは11人で、どうしてもそれ以外の選手がでてくる。強くなるには、切磋琢磨しながらも全員がまとまって戦えるチームでなければなりません。選手を獲るなら腐らずに努力できるのかどうかなど、内面もみています。数年後に誰がチームの軸になっていくのかは考えます。しかし、こちらの想定以上に成長してそこに食い込んでくる選手が出てきてほしいですね。明るく楽しいチームであることは選手が「カターレでプレーしたい」と思う基本的な要素であり、大事にしていきたい。伝統的に年下に対して面倒見のよい選手が多く、練習に参加した学生の大半が「富山でやりたい」と言ってくれます。ありがたいことです。選手獲得において地方のクラブが不利なのは確かですが、期限付き移籍の活用なども含めて、それを埋める努力をしていきたいと思います。

――今季はブラジル人選手を初めて獲得しました。

クラブとしての新しい試みです。戦力としてはもちろん、外国人のハングリーさがチームに刺激を与える点にも期待しています。カペッサ選手はプロ意識が高く、練習開始前に自主的にランニングして体をほぐしていますが、最近は彼と一緒に若手が走る姿がみられます。スタジアムでブラジル国旗が振られるようになるなど、ほかにも新しい反応が感じられます。地域における国際交流のきっかけにもなるでしょう。県内在住の日系ブラジル人のみなさんにも試合会場に足を運んでいただけたらうれしいです。

■クラブを代表する緊張感

――就任から約1年半。苦労も多かったのではありませんか。

慣れてはきました。大変だなと思うことはまだ少なく、これからだと思っています。カターレを代表しているという緊張感はあります。話し方や態度ひとつがクラブの評価を左右しかねません。できるなら多くの人に良い印象を持ってもらいたい。例えば新人選手をスカウトする際にも何度も足を運んで誠意を示し、もし断られたとしても先々まで気にかけて見ていきたい。そういうことが次にもつながると考えています。

――戦力外の選手に契約満了を告げるのも強化部長の仕事です。

契約満了を伝えるのは昨秋が初めての経験でした。とてもつらいものです。チームを強化する過程では避けられないことですが、戦力外と判断しても、人間として否定しているわけではありません。それを理解してもらえるように、普段からそういう付き合い方はしていきたいと思っています。近くにいて、出場できない時の悔しい思いや、それでも努力している姿を知り、気持ちを共有していたい。それによって選手も次の道に向かう気持ちが違ってくると信じています。それでも「あのヤロー」と恨んでいる選手はいるでしょう。損のある仕事だなと思いますね。査定する一方で選手に寄り添ってサポートするのが役目です。Jリーグのクラブでこのポストに就いているのは50、60代の方が多いのですが、僕のような選手を引退して間もない者が務めるメリットはそういう面にあるのかもしれません。

――今季は「得点力を上げて勝ち切る試合を増やす」というテーマでチームを編成しました。開幕3連勝を飾るなど序盤戦は狙い通りに進んでいます。

結果がついてきているのはよいことで、チームの雰囲気も良い。仲間同士の競争があり、プロとしての生き残りをかけて危機感をもって毎日練習する状況を浮氣哲郎監督がつくってくれています。昨年は引き分けが多くて勝点を伸ばせませんでした。勝ち切ることを意識して、2勝1敗のペースでまずは20勝を目指して戦っていけたらと思います。本当の強さは、連敗など勝てなくなった苦しい時期に選手たちがどう考えて行動するかに表れるものです。そういう時にも「やっていることは間違いない。信じてやろう」と頑張れるチームづくりに取り組んでいます。強化部としては良い時にこそリスク管理が欠かせないと考えています。急に補強が必要になった時など、いざという時にも素早く対応できるように普段から備えていきます。



ホーム初戦の鹿児島戦でゴールを挙げて喜ぶMF佐々木陽次選手（右）。カターレは開幕3連勝を飾って好スタートを切った

体育会系求人

掲載企業様募集！！

企業の求める人材は体育会系。
体力だけでなく気力も重要！



スポーツに打ち込み心技体を鍛えた“体育会系”の人材を求める企業が増えています。体力、明朗さ、目標に向かって努力した経験をはじめ、その資質が再評価されているからです。

「体育会系求人」では、スポーツに関する情報も盛り込みながら、就職・転職を考えている方に求人情報をお届けします。企業がどんな人材を求めているのか、これまでとは異なる角度から紹介し、企業と就職希望者の橋渡し的なコーナーとなれば幸いです。

（問い合わせはTスポとやま事務局まで）

カターレ案内板

■なでしこスクール開講

今年4月から新たに中学生以上の女性を対象とするサッカースクールを開講した。受講生を募集している。会場は県総合運動公園屋内グラウンド。月3回、毎週金曜日の19時から20時半まで実施する。

〈問い合わせ〉カターレ富山 電話076-461-5200

■8月までのホームゲーム日程

7節	5月7日（日）	13:00	vs 福島
9節	5月20日（土）	13:00	vs YS横浜
11節	6月3日（土）	13:00	vs 相模原
14節	6月25日（日）	14:00	vs G大阪23
15節	7月1日（土）	18:00	vs 北九州
19節	8月19日（土）	未定	vs F東京23

※会場はいずれも県総合運動公園陸上競技場

グラウジーズ飛躍のカギは

黒田 祐×秦 英之

富山グラウジーズはBリーグ1部（B1）で最も人口規模の小さい地域を拠点とするクラブだ。「Jリーグにおける鹿島のような存在になって欲しい」と期待されB1参入が決まった経緯がある。小さな地方クラブが飛躍するためのカギはどこにあるのか。スポーツマーケティング、スポーツビジネスに詳しい秦英之氏（ニールセンスポーツ社長）とグラウジーズ社長の黒田祐氏がクラブ経営について意見を交わした。





聞き手・文　松井　克仁
interview and text by Katsuhito Matsui

写真　赤壁　逸朗
photo by Itsuro Akakabe

――Bリーグ開幕による変化をどう感じているか。

秦　NBLとbjリーグを統一してBリーグになることは、選手やクラブ運営をプロ化し、バスケットボールを興行として成立させるために必要な仕組みづくりだった。舞台が整い、出だしは良いと思う。今後は東京オリンピック・パラリンピックの波をどう生かすかだ。スポーツを文化として確立させるチャンスだと考える。

黒田　Bリーグは世界で活躍する選手の輩出を大きなテーマに掲げており、bjリーグと比較して選手のプレー環境は年棒面も含め非常に良くなった。元NBA選手もいてパフォーマンスのレベルも上がっている。各クラブの観客動員数も増えている。グラウジーズもそうだ。

■無形の価値を収益に

――Jリーグの鹿島のように、グラウジーズが地方から高みを目指すには何が必要か。

秦　グラウジーズが将来、鹿島と同等かそれ以上のクラブになる可能性は十分にあると思う。鹿島は無形のものを有形にすることができている。スタジアムの指定管理者になるなどし、あらゆるものをマネタイズ（収益化）している。基本に忠実であって、現状に満足せず、進化し続けている。クラブ経営にもジーコイズムが浸透しているといえるかもしれない。最近ではピッチの研究開発もしている。Bリーグでは琉球や秋田、千葉、栃木もうまくやっている。自らが置かれている環境からいかにお金を生み出すかにかかっている。

黒田　チケット収入をいかに増やすかが今の課題だ。今季の1試合平均は2328人（4月20日現在）。トップチームを目指すなら、5000人収容のホームアリーナ（富山市総合体育館）に毎試合4000人を集めるぐらいにしていかなくてはいけない。さらに、グラウジーズがB1の上位クラブに対抗するには、鹿島のように長期的なビジョンをもって進化し続けなければならないと思う。現時点の目標は今季の1部残留だが、それは、1部で戦いながら、経験を積んでいくことが、チーム力、運営力を向上させる近道だと考えるからだ。2020年の東京オリンピックに選手を送り込むためにも、1部に居続けなければいけない。

秦　ビジネスとしての可能性を広げるためのポイントはいくつもある。社会が直面している少子化という問題に対し、スポーツからどういう力を与えていくかは考えなければいけない。ほかにも、選手の出身地、地元の歴史、企業とのつながり、クラブとしてのDNA（歴史や強みといった特徴）などを把握し、社会や企業との接点を増やすことが大切だ。大学との連携はお互いにとって有効だろう。企業や団体と連携していくには相手を引き寄せる磁石が必要だが、それはクラブのDNAの中にあるはずだ。企業のスポーツに対する関心の高まりは、東京オリンピック・パラリンピックがもたらす最も大きな効果、レガシーになるだろう。その流れをとらえ、企業とギブ&テイクの関係を構築してお金を出してもらう富山ならではの方程式をつくる必要がある。

■海外戦略の検討も必要

――東京オリンピック・パラリンピックというチャンスを生かすためのポイントは。

秦　スポーツビジネスの市場を広げるためには発想を切り替えなければいけない。社会の変化、時代の波を感じてどう乗っていくかを考えるべき。少子化に対し、例えば大学は非常に危機感をもっている。そこにスポーツの果たすべき役割があったりするわけで、便乗していく戦略も大事。ポイントは波の捉え方と価値のつくり方だ。富山という地盤を大事にしながら外とつながりをもつことで価値は高められる。アメリカンフットボールのクラブチーム・相模原ライズが、外国人選手の獲得が縁で彼の出身大学と友好提携を結んだ例もある。独自のビジョン（哲学）をもつことが大切で、それが連携の手がかりになる。学ぶところは学び、自分たちでつくるものはつくるという姿勢で取り組めばよい。

黒田　秦さんの言われたことはそのまま我々が取り組まなければならないことだ。良いヒントをいただいた。フロントスタッフにおいて、スポーツの価値をお金にかえていける人材をどう育てていくかが重要になる。結局は人としての魅力だと思う。大学との連携も国内だけでなく、アメリカをはじめ海外について考えていくべきだとあらためて思った。

◇

スポーツビジネスを発展させるカギは2020年に向けて起こる「時代の波」「スポーツの波」をうまく捉え、それに乗っていくことだという。富山ではプロ3球団の観客数が思うように伸びていない。波を捉えていくためにはスポーツに熱い思いをもつ人たちをつなげ、点から面にする動きがもっと必要だと感じた。この「Truth」もその一端を担うものにしていきたい。富山のスポーツシーンを熱くするには今がチャンスだ。



くろだ・たすく　2006―07年に富山グラウジーズでプレーし、09年から社長を務める上市町出身。富山商高校、信州大卒。2000年とやま国体には長野県代表として出場した。

はた・ひでゆき　2013年2月、ニールセン スポーツ（旧レピュコムジャパン株式会社）代表取締役に就任。スポーツスポンサーシップに対する投資価値を同社独自の方法で評価・測定し、日本のスポーツマーケティング市場を開拓。各スポーツ団体・スポンサー企業・代理店等、国内スポーツマーケティング市場におけるコンサルティング事業の展開を推進している。元アサヒビールシルバースターアメフト選手。



スポーツ伝言板

ここでは、県内の身近なスポーツの話題を紹介していきます！
あわせて皆様からの情報提供もお待ちしておりますので、詳しくは左ページ下記をご覧ください。

アランマーレ、日本リーグへ始動
元日本代表横嶋かおる加入

プレステージ・インターナショナル女子ハンドボールチーム「アランマーレ」は8月下旬に開幕する日本リーグ参戦に向けて新体制を発表した。元日本代表の横嶋かおる選手（高岡向陵高出身）ら7人が新たに加わり総勢16人でチャレンジする。



日本リーグに向けて始動したアランマーレの選手。横嶋かおる選手（前列右から4人目）ら7人が新たに加入した

横嶋かおる選手（31）は北國銀行で12年間プレーし昨年4月に現役を引退したが、アランマーレで主将を務める妹の横嶋遥選手からの熱心な勧誘などもあり、地元チームでの復帰を決心。「これまでの経験を少しでも役立てられたらと思って現役復帰を決めた。地元でスポーツができるのは本当にうれしいこと。多くの人から応援されるチームをつくっていきたい」と話した。大森聡監督は「彼女は若い選手たちにとって最高の手本になる。ともにプレーし助言をもらいながらチームが精神的にも技術的にも成長してほしい」と期待を寄せている。

今季の日本リーグ女子は9チームが参加して8月下旬から翌年3月まで行う。県内からの参加は立山アルミ以来16年ぶり。立山アルミのコーチなどを務めた飯山進氏がゼネラルマネジャーに就任するほか、射水市の「こすぎ総合スポーツクラブきらり」で小学4～6年生の男女を対象にしたハンドボール教室を開催することも発表した。

チームの愛称・アランマーレはイタリア語のオレンジ（アランチャ）と海（マーレ）を組み合わせた造語。昨春に発足し、日本リーグでの上位進出、2019年に熊本で開催される女子世界選手権や翌年の東京五輪に出場する日本代表への選手輩出などを目標に掲げている。

ホッケー小矢部RED OXに
日本代表村田が加入、
戦力アップで狙うは、1部優勝

社会人ホッケーチームで今シーズンから男子日本リーグ1部に昇格した小矢部レッドオックスに小矢部市出身で日本代表のMF村田和麻選手（25）＝写真＝が加入した。村田選手は、石動高校から山梨学院に進み、昨シーズンまで埼玉県の診療印刷でプレー、3月に行われたワールドリーグにも日本代表として出場した。所属する診療印刷が、昨シーズンをもって日本リーグから撤退したことから2020年の東京オリンピックを見据え、さらなるレベルアップを図るため練習環境の整ったレッドオックスでプレーすることを決めた。

村田選手は、4月7日の会見で「国際経験も積んできたので、そこで学んだことを地元に伝えていきたい」と決意を語った。レッドオックスの沼田秀樹監督は「彼は、巧みなスティックさばきで相手を翻弄しゲームを創る日本を代表するゲームメーカーです。彼の持ち味を最大限活かして、小矢部の新しい戦力として活躍を期待しています」と話した。

■男子日本リーグ小矢部RED OXホームゲーム日程
（会場 小矢部ホッケー場）

5月14日（日）	10時～	VS	ALDER 飯能
5月28日（日）	14時～	VS	岐阜朝日クラブ
8月6日（日）	15時～	VS	天理大学ベアーズ
9月24日（日）	14時～	VS	山梨学院 OCTOBER EAGLES
10月15日（日）	14時～	VS	立命館ホリーズ



ショートトラックの坂爪選手が
体幹トレーニングなど紹介

ショートトラックの日本代表としてソチ五輪に出場した坂爪亮介選手（タカショー所属）が4月1日、富山市磯部町のあおき接骨院でさまざまなスポーツに取り組んでいる小学生を前に競技経験などを語り、体幹トレーニングを指導した。

坂爪選手は群馬県出身。2歳から6歳まで米国のミシガン州に住んでいた時にスケートを始め、帰国後はスケートのほか、サッカー、水泳、卓球に取り組んだ。その後、駆け引きの面白さからショートトラックにのめり込み、日本のトップクラスの選手に成長した。

2014年ソチ五輪では日本代表として1000メートル、1500メートルに出場したが、いずれも予選敗退に終わっている。実はソチ五輪の4か月前、転倒して右足を骨折し、全治半年以上のけがにもかかわらず、金属で骨を補強して1カ月半で復帰、五輪に強行出場した。

本番で思ったように力を発揮できなかったことを悔やんだ坂爪選手は、18年2月に行われる平昌五輪に向けて「できることをすべてやって臨みたい」と16年5月から韓国に移住し、世界トップクラスの選手層を誇る地元選手と練習に励んでいる。

坂爪選手が住んでいるのはソウル市南郊の衛星都市・城南市で、「城南支庁」という強豪チームのホームであるタンチョンスケートリンクが拠点。朝夕に2時間ずつの氷上練習と3時間半の陸上トレーニングをこなす毎日である。

坂爪選手は写真などでショートトラックの競技の魅力や練習の様子、食事のメニューなどを紹介し、子どもたち全員の質問を受けて「相手をイメージして練習することが大切」「たんぱく質と野菜をしっかりとる食事を心がけている」などと話した。最後に「自分が今、一生懸命やっていることを無我夢中で追いかけてほしい」と激励。体幹トレーニングは6種類について実際に手本を示して指導した。





クラブ運営の人工芝グラウンド、
国際舞台で活躍できる選手を

常願寺川公園スポーツクラブ（舟橋村）は、昨年7月、県内の総合型地域スポーツクラブでは、初めて、自前で人工芝グラウンド「高平メモリアル常願寺スポーツパーク」＝写真右＝を完成させた。総事業費は約1億5000万円（うち6800万円は補助金、1400万円が地元企業等の支援）かかったが、クラブ主体で施設運営できるメリットをいかし、ソフト面の充実を図っている。クラブ会員は、サッカー、陸上、馬術、バドミントン、テニスあわせて約280人、舟橋村はもちろん、富山市、立山町、上市町、滑川市からも来ている。

国体等の社会人サッカー界で長年活躍した前田剛史コーチを今年からサッカー育成責任者に雇用するなど、普及だけでなく競技力向上も図れる体制づくりを進めている。安田量クラブマネジャーは、いずれは国際舞台で活躍する選手を輩出したいと意気込む。クラブハウスの建設も計画しており、今年は、比較的利用が少ない平日の日中の利用頻度をあげるため、「アメリカンフットボールやラクロスなど大学の合宿誘致にも力を入れたい」と話す。





前田さんと安田さん

県内のスポーツ情報をお待ちしております

『Truth』夏号掲載ニュースの締め切りは2017年6月末

原稿・写真（画像）は左記メールアドレスまで、よろしくお願いします。なお、体裁に合せたリライトは編集部でさせていただき、ゲラチェックはありません。

・Tスポとやまメール
nisennen@tspotoyama.com

富山発のスポーツメディア
Truth
Find us on Facebook
Tスポとやま Truth
https://www.facebook.com/tapo.truth
Tスポとやま

NPO法人 *Tスポとやま* は賛助会員を募集しています

NPO法人「Tスポとやま」はスポーツの力で富山を元気にしたいとの夢を実現するべく、県内のスポーツとそれに関わるみなさんを応援する活動を展開しています。

富山初のスポーツマガジンとして2015年４月に創刊した「Truth」は春・夏・秋・冬と年４回の発行を重ねて３年目を迎えました。2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて、アスリートたちの挑戦をこれからも広く伝えて参ります。

「Tスポとやま」では、活動の趣旨に賛同のうえご支援いただける賛助会員を募集しています。「Truth」の発行は賛助会員のみなさまをはじめとする多くの方のご協力によって成り立っております。これまでのご厚意に感謝申し上げるとともに、2017年度も賛助会員にご登録いただき引き続きご助力を賜りますようお願いいたします。

Tスポとやまメンバー一同

【賛助会員】

企業・団体：[年会費]　￥10,000(税込) ／ 1口
個　　人：[年会費]　￥3,000(税込) ／ 1口

※賛助会員には「Truth」（年４回発行）を送付いたします。また、同誌に御芳名を掲載します。会員期限は入会日から2018年3月末までとします。

【入会方法】

申込書を記入いただき、年会費を銀行振込などでご入金ください。
◇振込先　北陸銀行　本店営業部　普通６０７１０５６　特定非営利活動法人　Tスポとやま
　　富山銀行　本店営業部　普通３０１２３５７　特定非営利活動法人　Tスポとやま
※振込の場合は申込書を下記までFAXまたはメールでお送りください。ホームページからも申し込みいただけます。
◇FAX：0766-55-0009　◇E-mail：nisennen@tspotoyama.com　◇問合わせ先　080-3461-5959（Tスポとやま事務局）

《*Tスポとやま* 賛助会員　申込書》

ご芳名（または企業団体名）	ふりがな		
ご住所（「Truth」のお届け先をご記入ください）	〒		
電話番号	（　　）		
メールアドレス	@		
「Truth」巻末の社名・氏名掲載希望の有無	掲載を希望する（右欄に掲載名をご記入ください）	掲載名	希望しない
口数・金額	（法人・個人）いずれかに丸をお付けください　口	金額　円	
お支払方法（いずれかに丸をお付け下さい）	現金　・　銀行振込 ※申込書をFAXなどで送付ください		

＜個人情報の取り扱いについて＞皆様からお預かりした個人情報については「Tスポとやま」の活動関係事務のみに使用し、それ以外の目的に使用したり、第三者に開示したりすることはございません。

Tスポとやま　2017年度賛助会員の皆様（同年4月20日現在）

【法人会員】
小笠原製作所、荒井学園、東亜電工、富山機械工業センター、クラブJoy、山崎機工、富山技販、ユニゾーン、内山精工、日伸精機、津根精機、澤田製作所、岡崎工機、伸栄商会、バレススポーツクラブ、高岡スポーツユナイテッド、北陸機材、KANAYA、五省会　西能病院、ヤマヒデホーム、JUMP　MARUYAMA、北陸バロン美装、前川歯科クリニック、まちづくりとやま、藤田内科クリニック、ホテル よし原、潤観光開発、常願寺川公園スポーツクラブ、バイエルンスポーツ、ジャストドゥイット、カターレ富山をサポートする会

（順不同）

【個人会員】
尾畑達彦、尾畑美奈、sanwaytoway、新田八朗、鵜殿裕、山形英明、江川正光、塚田三四治、河崎克彦、竹田克史、田村勉、田村恵子、北井誠、松下和磨、西田真、登坂修、野沢紀子、牧内直哉、木内岳夫、髙岡茂樹、大辻保、横嶋好子、小竹秀忠、福井良、成田光雄、中田憲昭、松島公裕、小沼憲子、西野由香、小山孝義、南雲公子、面谷太志、伊東与二、谷崎文保、大家芳夫、大鋸谷孝志、嶋田利隆、松本裕典、笹木忠、若林良、高森勇、田中一郎、清田義之、澤田利浩、東軒一虎、松本壽夫

（敬称略、順不同）

【編集後記】

・最近、県外から「Truth」を送って欲しいという依頼が増えてきた。それが縁で、同じフリーペーパーのスポーツマガジンを発行する東京都スポーツ文化事業団の担当者とお会いすることができた。事業団は東京五輪の競技会場になる東京体育館などの指定管理も行っている。2020年にかかわるチャンスが着実に広がっている（松井）
・世界バドミントン連盟（BWF）のホームページをチェックするのが日課になっています。トナミ運輸の園田・嘉村ペアが今年に入り一時は世界ランキング２位に。HPでは彼らの国際試合の得点経過をリアルタイムで知ることができます。遠い異国でのプレーに思いをはせながら数字の動きに一喜一憂しています（赤壁）
・富山サンダーバーズ・長江翔太外野手の取材を通じ、夢や目標を持ち、口にして伝えることの大切さを知りました。私も恥ずかしがらずに話をしようと思います。それが成長と成功に繋がる鍵だと感じる時間でした(土田)
・現在、富山少年野球リーグが競技人口の減少食い止めを図るべく、ある取り組みに着手しようとしています。いずれ内容を誌面でお届けしますので、また目を通してみてください。（中沖）
・アスリートや研究職、審判などの方の中から独自の視点での寄稿を期待しております。スポーツを通じて知った喜びや苦労など、経験したからこそ書ける文章は、若い選手の育成・強化につながりますし、何より面白いです。お忙しい方は「聞き書き」という形でお手伝いもさせていただきますので、ぜひ！（若林）

NPO法人　Tスポとやま　富山初のスポーツマガジン「Truth」発行・運営

TEL：080-3461-5959　E-mail：nisennen@tspotoyama.com
HP ： http://tspotoyama.com/
Facebook：https://www.facebook.com/tspo.truth

顧問：田中一郎
STAFF：赤壁逸朗／金森正晃／小林永／坂野上満／谷尚人／土田由香里／中沖紘一／永森茂／松井克仁／若林朋子
DESIGN：TIME PLANNING JAPAN 株式会社

Truth 夏号は2017年7月下旬発行予定